

(様式例2)

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の工夫、人権を尊重した言葉遣い、公平感でありあてはまらないとした生徒 約20% ・学習の評価、個に応じた指導、少人数授業での評価は、いずれも80%強が高評価。反面、あてはまらないとした生徒はいずれも8%~10%いる。 ・保護者、学校評議員等では、個に応じた指導、少人数授業、基礎学力定着への取組での評価について、よくわからないとした割合20%~30%。 ・中高の交流での評価について、よくわからないとした割合16%。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎・基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫ある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な学習の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上 4 情報発信 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電子メディアによる情報発信(HP、携帯連絡網<メール配信システム>) (2) 活字メディアによる情報発信(学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進 6 魅力ある図書館づくり <ol style="list-style-type: none"> (1) 豊かな心を育む「読書センター」、主体的に学ぶための「学習情報センター」として、魅力ある図書館づくり 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会 ・教科書選定委員会 ・図書館運営委員会 ・補助教材選定委員会 ・情報公開検討委員会 ・総合的な学習推進委員会 ・学習成果発表会実行委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 年間指導計画の作成依頼、集約。学期末、授業改善への取組の検証及び反省の記録の依頼集約 (2) 連休課題等を早めに配布することで、学習習慣の確立への支援を行うことができた。 (3) 「授業改善研修会」の実施 (4) 学校設定教科「デュアル実習」の実施推進 (5) コンピュータセキュリティ意識の向上 (6) メール配信システムへの登録状況向上 (7) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など)、新聞記事の許諾申請・掲示 (8) 町教委、連携中学校、本校と連携行事(中高一貫教育事業)の調整 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年間指導計画の作成に関して各教科への確に依頼できたか (2) 適切な配布時期で実施することができたか (3) 分科会において、活発な意見交換がされたか (4) 計画を持って推進することができたか。 (5) チェックシートを通して意識の変革 (6) 登録者が100%となったか (7) HPの更新、新聞記事の掲示までが滞りなくできているか (8) 前年度出た課題について、改善しながら進めることができたか 	

(9) 生徒の興味を引きつける図書館広報活動		(9) 貸出冊数の増加	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①年間指導計画の作成依頼・集約と学期末授業改善の為の反省記録の依頼集約 ②学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに配布した。 ③「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流 ④「デュアル実習」の指導 ⑤チェックシートの提出と確認の徹底 ⑥帰宅確認訓練が一度しかできなかった。 ⑦HPの更新、記事の掲載から許諾申請・掲示がすみやかにできた。 ⑧連携行事のスムーズな運営 ⑨専門科の資料の充実	①各教科に的確に依頼できたか ②適切な配布時期に実施できたか ③授業改善に活かせることができたか ④当初の指導計画通り実践できたか ⑤セキュリティ意識が向上したか ⑥登録者数と回答率の向上 ⑦更新頻度。すみやかな新聞記事掲示。 ⑧課題を解決しながら運営できたか ⑨学習支援、教科・分掌との連携	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D A (B) C D	
11 成果・課題 ①② ○長期休業課題を保護者懇談時に配布。保護者へ早期に知らせることができた。 ○授業改善への取組の検証及び反省の記録依頼は適切な時期にできた。 ▲反省記入後の集約が遅れ気味になった。 ③ ○他教科の授業参観をすることで、見識を広めることができた。 ④ ○「デュアル実習」の取組は、生徒の力を育てるのに有効な実践だとか感じられた。 ▲「デュアル実習」での職場と生徒とのミスマッチが生じた。今年は無事に終えられたが、生徒の特性を前もって情報収集しておく必要性を痛感した。 ⑤ ○多くの職員がチェックシートを元に日頃の、セキュリティに関する意識を保ちながら、職務に臨むた。 ⑥ ○スマホに制限がかかっていたり、ウィルスに感染している生徒がいる中、100%近い登録が確認できたのは評価できる。 ⑦ ○HPや新聞記事について、更新・掲示をすみやかに行うことができた。 ▲新聞記事の使用目的の確認（HP校内掲示以外での確認） ⑧ ○連携行事は関係方面と相談を重ね、改善しながら良い行事となるようにしていきたい。 ▲連携行事の学習面談指導について、課題が見つかったが、話し合いの成果もあり、理解し合えた。 ⑨ ○授業利用が前年度より増加。それに伴い、他図書館からの借用資料数も増加。 ▲貸出冊数の減少。		総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案 ①職員への早期な時期及びわかりやすい見本を添付しての作成依頼と確実な集約 ②適切な時期の配布 ③授業改善の啓蒙と実施目的の周知徹底。授業改善をより良いものとする方法の検討 ④課題認識の共有と早期対応。報連相の徹底。 ⑤日常的なセキュリティに対する呼びかけを行っていく。 ⑥行事などの情報を配信。未登録者の定期的なチェック及び登録への個別対応の実施 ⑦新聞記事の使用目的の確認（許諾申請時） ⑧揖斐高カレンダーの認知度Up（学校の様子が変わるのにあまり活用されていない）。			

⑨連携行事は、改善しながら良い行事となるようにしていきたい。
 ⑩生徒の興味を引きつける図書館広報活動の方策の検討

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「迷惑調査」と「教育相談週間」については年間3回実施している。クラス内でのトラブルから「いじめ」の訴えが1件あった。それ以外にもクラス、部活動などで人間関係のトラブルは散発しており、定期的に調査を実施するとともに、自己理解他者理解の力を育てる取組は今後も検討していく必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣確立の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 交通安全指導 (2) 生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成。 3 規範意識の醸成 <ol style="list-style-type: none"> (1) ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 (2) 問題行動の未然防止に努める (3) 携帯電話・スマホ使用の改善に向けての指導 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会 ・いじめ防止対策委員会 ・人権教育委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 校門あいさつ指導 (2) 通学路立哨指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発、養老鉄道乗車指導 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学年団による校門あいさつ指導、生徒による挨拶活動、MSリーダーズによる交通指導などは、協力も得られ実施している。 ・通学路立哨指導は通学路の見直しを含め年度・月当初に実施しており、鉄道乗車指導は定期的の実施している。 ・交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も、全校生徒対象に実施している。 	<ol style="list-style-type: none"> ①遅刻者数増加 (744→764) 欠席者数減少 (2032→1896) ②交通事故増加 (3→9) ③問題行動件数減少 (学校反省) 35(17)→23(12) <p>※すべて12月までの統計</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○組織的に指導をすることができた。</p> <p>▲転退学者数は昨年と横ばい (19→18) であった。自己肯定感を高める学校全体での取組をしたい。</p> <p>○不登校傾向の生徒がいるため、依然欠席者は多いが、遅刻しても登校しようという姿勢はみられた。遅刻防止啓発活動を継続していきたい。</p> <p>▲交通事故の件数が増加した。交通マナー指導の強化が必要である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生に対する適応指導を充実させる。 ○HR活動の時間 (LHR) の指導法についての研修の機会を持つ。 ○学習障がい、保護者対応などの今日的な課題に対する研修の機会をもつ。 ○遅刻防止対策の活動を継続する。 	
総合評価		
A (B) C D		

2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「学校評価アンケート」結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の希望に沿った進路指導をしている」 生 徒 72% (H25) 78% (H26) 87% (H27) 90% (H28) 保護者 85% (H25) 82% (H26) 84% (H27) 88% (H28) <p>100%目指して、更なる工夫が必要だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」の質問に否定的に捉えた方が 10%いた。3年生の保護者向けの進路説明会を実施したが、更なる工夫や1年生と2年生の保護者向けの情報提供が必要だと感じた。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基礎学力の定着 2 キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現 3 コミュニケーション能力の育成		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年会との連携し、「揖斐Basic」「進路ガイダンス」「3年生保護者対象進路説明会」「学校見学会」「外部講師による面接指導」「1分間スピーチ」等を実施した。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）、外部模試 (2) 進路ガイダンス、面接指導、補習などの実施や地域への体験学習や学校見学など、多くの校外体験学習の実施	(1) 揖斐テストおよび外部模試の結果で評価（各自の設定した目標が達成できたか） (2) 「進路適性検査」「各行事のキャリアアンケート評価」（各自の設定した目標が達成できたか）		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）は、年間計画に基づいて実施している。 ②適切な進路情報の提供や進路ガイダンスや面接指導、補習、学校見学、地域への体験学習を計画的に実施している。また、すべての行事の中で、コミュニケーション能力の育成を意識させる指導を実践する。	① 揖斐テストは、学び直しの評価外部模試による各生徒の学力の伸び率 ②多くの進路情報を収集し、自分は「何をしたいか」「何に興味があるか」を「進路適性検査」でチェックして評価 地域への体験学習・学校見学などの多くの体験や学校行事を通して、コミュニケーションが図れたかを評価（各行事のキャリアアンケート評価）	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
11 成果課題	○「揖斐 Basic」による学び直しや問題集学習により、ある程度の基礎学力の定着が図れた。 ▲多くの体験学習等から「何をしたいか」「何に興味があるか」を見つけさせ、「進路自分調査」でチェックをし、自分にあった進路選択をし、進路実現ができたかどうかをどのように検証していくかが課題である。 ▲進路ガイダンスや学校見学は、生徒にとって有意義だったが、3年間計画での身につけさせる力が曖昧に見えた。 ○保護者説明会の実施等で保護者への情報提供がうまくできたが、更に保護者や生徒への情報提供の精選や進路意識の向上に繋がる説明に心がけたい。 ○コミュニケーション能力を高めることの必要性が浸透し、多くの進路行事などで、コミュニケーションを意識し活動させることができた。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

<p>12 来年度に向けての改善方法案</p> <p>(1) キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現</p> <p>①進路ガイダンスのあり方(学校見学を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあわせた各学年主導の進路ガイダンスを考える。 <p>②進路実現のチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各生徒にあった進路先をどのように見つけさせるかを課題とし、いろいろな場面で検証していく。 ・進学や就職がなかなか決まらない生徒への指導方法を模索する。 <p>(2) 進学個別体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも個別対応ができるよう、進学相談や進学先分野別の進学体制を整える。(受験までの個別計画をつくる) ・進学の生徒が少なくなり、学校の発展のため、来年度は進学率を増やしていきたい。その手立てを1年のうちから考えさせたい。(H28年度は、35%の進学者) <p>(3) 基礎学力の定着</p> <p>①「揖斐Basic」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期終了時点で、成績の優れない者を学習室で手厚く指導する。(習熟度の実施) <p>②総合的な学習の時間を利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の1学期で「揖斐 Basic」を実施する。 <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度結果の出せた行事等の取り組みは、来年度も実施していく。

2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動、生徒会活動に関する問に対する肯定的な回答は、生徒が約7割で例年と大差のない数値である。 ・「学校は学校行事や生徒会活動で、生徒に自己実現する場を設けている」の問に対する保護者の肯定的な回答が9割を超えた。この評価を継続できるようにしたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。 ・各委員会顧問との連携。 ・各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施。 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討。 (3) 1年生の部活動の全入制の継続。部の活動状況の広報。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 新入生が部活動を継続できているか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施。 ・委員会活動への参加を促し、新しい取り組みの検討。 ・部登録カードを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。 ② 生徒の委員会活動への参加状況。 ③ HRTと部顧問との連携がなされたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○生徒会執行部員は文化祭、体育祭の企画運営や各委員会の活動、ボランティア活動に責任を持って取り組めた。</p> <p>○「部活動ニュース」や「委員会ニュース」などを生徒会用掲示板に掲示し、部活動、委員会活動を多くの生徒に紹介することができた。</p> <p>▲生徒の委員会活動参加状況は概ね良好であるが、「積極的に」という観点からみるとまだ不十分である。</p> <p>▲1年生で部活動を前期終了までに退部した生徒を対象とした学習クラブ参加者は40数名で、昨年度に比較して若干減にとどまっている。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部からの情報発信(広報活動)をさらに活発に行い生徒の生徒会への意識を高める。 ・文化祭・体育祭では、生徒がより主体的に運営できるように支援していく。 ・文化祭クラス企画に多様性をもたせ、内容がより質的に向上するように働きかける。 ・男子生徒の増加傾向を踏まえ、男子入部可能運動系部活動の再編を検討する。 	

2 評価する領域・分野	◇保健安全		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食習慣の不適切さが、学校生活に影響していることが推測される。 ・校内美化に関して、自己の責任は果たすがそれ以上は積極的に取り組まない。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健康保持の意識づけと自己管理能力の向上。 事故の未然防止と災害に備えた訓練の実施。 健康的な環境の整備と保全。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ [保健指導係] 健康管理に関する指導。 ・ [学校安全指導係] 校内の安全状況チェック。各種訓練の実施。 ・ [環境整備係] 生徒による清掃活動の指導。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 健康診断事後指導。保健室指導。 (2) 安全点検。命を守る訓練。 (3) 美化委員会清掃活動。	(1) 再検査受診率の向上。保健室来室者の変化。 (2) 不具合箇所への減少。訓練取組状況の向上。 (3) 清掃の取組状況の向上。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種健康診断の実施および事後指導。保健室指導。 ・ 命を守る訓練等による、災害に備えた行動体験と意識の啓発。 ・ 美化委員がクラスの美化活動の中心となることを目標にした各種作業の実施。 	① 健康診断後の再検査等、事後指導の結果が向上したか。	A (B) C D	
	② 訓練や講習会に取り組み、意識や行動が向上したか。	A (B) C D	
	③ 美化委員を中心に校内美化が向上したか。	A (B) C D	
11 成果課題	○運動器検診を初めて実施した。生徒のけがや体調不良に対応できた。 ○予告なしの訓練実施や全校集会でのVTR視聴に生徒はまじめに取り組んだ。 ▲歯科診断後の治療を何度も促し、受診率を向上させる。 ・ ▲場所と状況に応じたシェイクアウト行動ができることを訓練内容とする。 ▲清掃状況チェック加え、美化委員会による美化推進の方法をさらに講じる。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診断後の治療受診率が50%以上になるよう、対象の生徒と保護者への通知を強化する。 ・ 自己判断して行動する能力を育成することを目標にした命を守る訓練を実施し、取組結果を生徒にフィードバックして防災意識を高める。 ・ 2年生対象のDIG（災害図上訓練）は自身の地域や生活と結びつけ、身近問題として考えられるように工夫して継続実施する。 ・ 美化委員会による掃除状況の点検や学校敷地内清掃活動を継続し、全校生徒の美化意識を育成する。 		

2 評価する領域・分野	◇渉外		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭との連携として、文書わかりやすく伝えている。81% 確実に届けられている。58% ・ PTA等の徴収金について詳細に公表している。84% ・ 一斉メールサービスは有効に活用されている。83% 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの内容を改善する。 ◇保護者への迅速な情報提供として、ホームページやメール配信システムを有効活用する。 ◇百周年記念事業について、検討をする。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA役員会 ・ 同窓会理事会、同窓会総会 ・ 百周年記念事業実行委員会 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取り	(1) PTA活動の協力度、役員会議の意見など各会議への参加協力など		

組みを早くして、内容等を十分に検討する。 (2) メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用する。	(2) 同窓会理事会、百周年記念事業実行委員会	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討した。 メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用できた。 同窓会理事会を2回開催した。 第1回百周年記念事業実行委員会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTA支援活動等に多くの保護者の協力が得られた。 ② PTA役員の各会議や行事の進捗状況 ③ 同窓会関係の会議や行事 ④ 百周年記念事業 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員の皆様のご協力を頂いて、各会議や行事が円滑に進んでいる。 ○外部の会議等にも大勢の方に参加いただいて、PTA活動に対してご理解を得られている。 ○同窓会関係も継続して行事が引き継がれ、軌道に乗ってきている。 ▲メール配信システムなどを利用し、保護者への連絡やお知らせ等を行っているが、各行事への参加者が固定化されてきている。 	<p>A (B) C D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ○活発な活動・参加ができるよう、PTA役員組織を見直し協力体制の充実を図る。 ○百周年記念事業実行委員会の意識の高揚を図り、具体的な計画を立てできるものから実行にうつしていく。 ○今後も、一斉メールサービスを活用し、配布物等についても連絡を入れる。 		

2 評価する領域・分野	◇ 専門部 (生活環境科)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に参加できており、実習のため居眠りや私語等がほとんどなく、マナーを守って授業を受ける生徒がほとんどである。 授業後、更に学びたいと思う生徒が少ない。自主的に勉強している生徒が少ない。→考えさせる場面を多くとる。家庭生活に結び付ける指導を工夫する。 応用的な問題は、理解度が低下する。→わからなければ何度も説明する必要がある。関連する内容について、継続的に学習させる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1 学習指導方法の改善、「わかる授業」「さらに学びたい」と思う授業の展開 2 「生きる力」「考える力」の育成 3 地域交流・連携の促進 4 コンクールや検定への挑戦で技術力向上 5 学習成果発表会の成功 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科会議での意思統一と情報交換 各分掌・各学年との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業の目標の明確化とわかる授業の工夫 (2) 幼稚園、中学校、特別支援学校、高齢者施設への実習やボランティア活動の充実 (3) 進路と連携した指導 (4) 検定・コンクールへの挑戦 (5) 学習成果発表会の成功 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 目標が達成できたか生徒による自己評価で判断。 (2) 生徒の振り返り、地域からの意見により判断。 (3) 専門性を生かした志望先への合格。 (4) 3年間で被2級・食2級・保3級合格。コンクール入選。 (5) 事後アンケートの集計結果 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の年間計画の作成と見直しをし、「わかる授業の工夫」を各自で研修した。 科目「子どもの発達と保育」「子ども文化」「課題研究」等で各コースの特徴を活かした実習に取り組んだ。家庭クラブではボランティア活動を実践した。 生徒の希望ができる限りかなうよう、進路指導部保護者と話し合いながら進めた。 検定やコンクールの指導を放課後や早朝に実施した。 外部講師による講習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導と評価の年間計画の内容 ②振り返りシートの内容、施設からの聞き取り結果 ③進路未定者の数 ④検定の合格率、コンクール入賞者を昨年度と比較 ⑤生徒の感想、テストによる評価 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>

11 成果・課題	<p>○予定した科目の「指導と評価の年間計画」を作成し、授業改善に役立てた。</p> <p>▲専門科目で学習した内容が就職、進学先に活かされていないので、開拓していく必要がある。しかし、卒業生の活躍があり、調理見習いの就職先は確保できた。</p> <p>○新聞社・ケーブルテレビに数多く取材してもらえた。ホームページでのPRも充実させた。</p> <p>○揖斐川町との連携・協力に関する協定を締結でき、今まで以上に地域とのつながりが深まり、実習やボランティア活動を充実させることができた。</p> <p>○地域交流センターはなももにて、学習成果発表会や家庭クラブ副会長校としての指導者講習会を無事終えることができ、生徒が生き生きと活躍できた。地域からよい評価をいただいた。地域に根ざした揖斐高を更にPRしたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の年間計画」を完成させたい。作成済みのものは見直し、これをもとに授業改善に努める。 ・教員の技術習得をめざし、科内での研修会を実施し研鑽を積む。 ・学習成果発表会への取組を今年度の反省を生かしてさらに円滑なものにする。 ・地域に根ざした揖斐高校の活動を継続実施する。ただし、行事の精選が必要である。 ・「いび祭り」の学習を全校行事にしてはどうかと思うが、難しいので、例年通り3年生環、科目「生活教養」にて実施する。 ・介護職員初任者研修を平成29年度から3年福祉コースで実施するが、授業内容の精選が必要である。 ・来年度は県連家庭クラブ会長校のため、行事の計画や準備、生徒の育成に努める。 	

2 評価する領域・分野	第1学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の指導に対する不信感の内在しているため、授業参観など保護者が参加する行事を充実させる必要がある ・携帯電話の預かり指導を行った効果か、SNSのトラブルは昨年よりも減ったが、廊下でじゃれ合うなど落ち着きに欠ける光景が見られた。 ・部活動は全員加入が原則であるが、参加率が低いため制度自体の見直し、部活動の選択肢を増やすなど手を打つ必要がある。 ・生徒指導案件か教育相談案件かの線引きが難しく、普通高校としてどこまでケアするのか、できるのか職員全体での共通理解が必要である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.基本的な生活習慣の定着 2.社会性の育成 3.基礎学力の定着 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・問題が生じた際に迅速に対応を試みた ・生徒指導部と連携し、生徒指導対応・教育相談対応を臨機応変に使い分けた。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) ベル席の徹底 (チャイムと同時に授業を始める) (2) 朝読書開始時間を5分前倒し、10分間設けた (3) 1年間を通して携帯電話の預かり指導と行った。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 概ね達成できた (2) 遅刻は例年と比較して減らすことができたため活用できるシステムだと考えられる (3) SNS上のトラブルがほとんどなかった。また授業への切り替えができるため、教科担任から評価していただいた。保護者もおおむね好意的にとらえてくれている 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や時間厳守、言葉遣いなどの社会性の育成と情報モラルに関する指導 ・行事への活動支援と生活、身だしなみ指導 ・授業などの学習への取り組みと揖斐Basicによる基礎学力の定着 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の状況観察と情報収集 ②学校行事などの取り組み状況の検証、生徒の状況観察 ③学習への取り組み状況の検証、定期考査などの成績状況 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○朝読書を10分設定することで、遅刻指導が行いやすくなった。2年次も継続して朝読書の時間を充実させていきたい。</p> <p>▲携帯電話の預かり指導そのものはうまくいったが、じゃれ合って遊ぶため音量が大きくなりがちになり、進路指導部に迷惑をかけた。</p> <p>▲高校生活に向けていない生徒に関しては、細かく記録するとともに、家庭との連絡を密にする必要がある。</p>	
12	来年度に向けての改善方策案	

<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の担任に生徒情報を確実に伝達し、1学年の指導の延長として2学年の指導をしていく。 ・朝読5分前開始の継続。 																						
2 評価する領域・分野	◇第2学年																					
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の項目では、より個に応じた少人数制の展開を望んでいる傾向はあるが、おおむね満足していると感じている。 ・学校からの文書が家庭に届いていない場合も多く、HP・メールの活用を充実させる必要がある。 ・校内の施設や環境整備を充実させる必要がある。 																					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな心の育成（社会適応力を身に付けさせる） 2 学習習慣の確立（授業態度の見直しと家庭学習の充実） 3 キャリア教育の推進（具体的な目標の設定） 																					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会での意思統一・生徒理解を図る。 ・各分掌と連携をとり、迅速な対応を図る。 ・正副担任と教科担任と連携を図る。 																					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校行事に主体的に取り組み、集団の中での役割を自覚し協調性を身に付けさせる。特に修学旅行を通してコミュニケーション能力を向上させ、円滑な人間関係の築き方を学ばせる。 (2) LHRや学年集会等を利用し、社会で必要とされるルールやマナーを身に付けさせる。 (3) 学力の定着を図るために、未提出物調査などを実施する。 (4) 進路ガイダンスを効果的に活用し、自分の進路について具体的に考えさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会活動や部活動の参加状況 修学旅行アンケート結果 (2) 出席状況、身だしなみ検査結果、ファイル指導などの状況観察、情報交換 (3) 未提出物調査、生徒の状況観察、情報交換 (4) 進路調査、個別懇談 																					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																				
<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の資質に応じた能力の育成。 ② 修学旅行へのきめ細やかな事前指導。 ③ 時間厳守、言葉使いなどの指導とともに、定期的な服装指導による社会性の育成。 ④ 課題の提出状況を把握し、強化と連携した指導の実施。 ⑤ 大学見学会や進路ガイダンスを実施し、進路研究を推進。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事などの取り組み状況の検証、生徒観察 ② 生徒観察、情報収集 ③ 身だしなみ検査結果、生徒観察 ④ 学習への取り組み状況、定期考査などの成績状況把握 ⑤ 生徒観察、情報収集 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	(A)	B	C	D
A	(B)	C	D																			
A	(B)	C	D																			
A	(B)	C	D																			
A	(B)	C	D																			
(A)	B	C	D																			
11 成果・課題	<p>○部活動の部長や、生徒会のリーダーとして責任ある仕事を任せられる生徒も見られた。</p> <p>○修学旅行では、事故や大きな規律違反なく、また時間通り行動できる姿が見られた。各教員の指導もあったが、生徒の大きな成長を見ることができた。</p> <p>○朝読書を落ち着いた雰囲気で行うことができた。</p> <p>○進路ガイダンスでは、例年より積極的に参加し、自らの進路研究に前向きに行えた。</p> <p>▲人間関係のトラブルも多くあり、思いやる心を育てるために関係各所に働きかけを行いながら、多くの教員がかかわることを増やしたい。</p> <p>▲授業規律や課題の提出期限の守れない生徒への指導を継続したい。</p>																					
12 来年度に向けての改善方策案																						
他分掌や教科担任とのさらなる連携を密にとり、生徒一人一人に見合った指導を行う。進路の決定向け、学力の向上とともに社会で必要とされる力をつけさせる。																						

2 評価する領域・分野	◇第3学年																	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と生徒の意識に大きな開きがあるように思われる。 ・特に学校からの文書がきちんと保護者に渡っているか心配である。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしている。 ・教室を中心とした環境整備をもっと行う必要がある。 ・保護者も教職員の姿勢には肯定的評価をしている。 																	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の推進と進路実現の達成 2 社会で生きる力の育成 3 最高学年としての自覚・態度の育成 4 連携・協力体制に基づく指導 																	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会での意思統一 ・正担任・副担任そして教科担任・部活動顧問との連携 ・校務分掌との連携 																	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業を軸にして基礎的な学力をつけ、基本的な生活態度の育成を可能にする指導 (2) 総合学習・LHR・放課後等を活用して進路目標を達成する指導 (3) 学校の核として、部活動や学校行事への主体的な参加を促す指導 	<p>*すべての項目において生徒の観察以外に、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 成績概況、課題の提出状況、出欠状況、退学・転学者数、迷惑調査、身だしなみ検査、ファイル指導等の観察 (2) 面接指導報告書、生徒同士の練習状況、正・副担任を中心とした教員との情報交換 (3) 活動日数、戦績、出席率、表彰、学校外の行事への積極的参加など 																	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																
<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科担任との情報交換と連携 (2) 家庭との連携・学年団での統一指導 (3) 面接・作文の指導、懇談、情報提供 (3) 部活動や学校行事などへ積極的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績概況、教科担任による評価 ・出欠状況、身だしなみ ・進路達成状況 ・学内外からの評価 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
11 成果・課題	<p>○部活動や学校行事あるいは校外の行事などにも積極的に参加し、最高学年としても役割をある程度果たせたと感じている。また迷惑調査においても、学習面では落ち着いて授業を受けており、生活面でも人に迷惑をかけるような訴えはほとんどなかった。進路指導においては面接等の指導で、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。</p> <p>▲1学期に退学・転学者を3名出してしまった。また、朝の読書など、下級生の模範となれない部分もあった。</p>																	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>年度当初に前学年担当職員との情報交換を密に行う。学年団内外の情報交換の機会をもっと多くする。</p>																	
		総合評価 A B C D																